

今月のテーマ

ウエンカムイ(悪いクマ神)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソッコ(=お便り)形式のエッセイです。

苦

前町郷土資料館の三毛別ヒグマ事件の展示、イラストのように、迫力です。一九三五年十二月に三四〇話ものヒグマが開拓村を襲い、七名死亡、三名が重傷を負ったというこの事件は多くの小説や映画にもなっていますが、なかでも有名なのは吉村昭『熊嵐』。じじりの私は、怖すぎて途中で読むのを断念しました…。

でも、そこまでいかななくても

最近ヒグマ出没事件が多発して
ますよね。札幌の市街地で人が
ヒグマに襲われるショックな
シーンが全国ニュースでも流れ、
結局そのクマは駆除されまし
た。それを見た方から「アイヌ
民族にとってクマはキムンカム
イ(山に住む神)。位の高い大切
なカムイのはず。あんなふう
に駆除されていいんですか?」
というメールが届きました。たし
かにあのクマは川伝いに街なか
に出てきて、行き場を失いパニックになったらしく、胸が
痛むことでした。

とはいえ、人間に善人もいれば悪人もいるように、クマにも立派なカムイもいれば性悪なカムイもいる。かつてのアイヌ社会でも人間を襲ったクマのことはウエンカムイ(悪い神)と呼び、徹底的に罰したのです。殺した



イラスト/ 莊田悠人

後の肉は絶対に食べずに切り刻んでまき散らしたり、頭骨は便所に埋めて糞尿まみれにしたり、魂は二度と復活できない暗黒の世界に追い落としたり…。

キムンカムイは普通は奥山で暮らしているとされるけど、こういう悪いクマは山の麓にいて、ヌブリケスンブリウエンクル(山裾に住む行いの悪いやつ)と呼ばれます。毛の色も、ちゃんとしたキムンカムイは黒なのに対し、ウエンカムイは赤毛なんですって。なかでも特別悪いのは、「体の半分は噛んだ炭の中をくぐらせたように真っ黒で、半分は筋子の汁の中をくぐらせたように赤い」とのこと。初めて聞いた時は、まるでヒロエでしょ、って不思議に思ったけど、どうやら理にかなったことみたい。最悪最強のウエンカムイは自分の体に矢が刺さらないように、まず松

に体をこすりつけて松ヤニを塗りつけ、それから泥の中で転げ回る。すると赤毛の上に、黒い鎧が装着されたかのようになるんですって。たかがクマにそんな知恵があるはずないって? アイヌ民族の傑出したクマ撃ち猟師、姉崎等さん(一九三二〜二〇三三)の『クマにあつたらどうするか』をお読みください。考えが変わります。



次回のテーマは「ボッコ(出産)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イランカラブテ
「ごんには」からはじめる。

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。